

# 豊野地区住民自治協議会だより

第76号

令和5年4月1日 発行者:豊野地区住民自治協議会

事務局(豊野支所内) TEL・FAX 217-6638

メール:jimukyoku@toyonojjk.com ブログ:toyonojjk.naganoblog.jp/



豊野町人口 男 4,521人 (65歳以上 1,378人) 女 4,686人 (65歳以上 1,730人) (令和5年3月1日現在)

## 被災住宅用地固定資産税・都市計画税減免継続

### 日影用水取水口水門の電動化工事完了

台風19号災害後、固定資産税・都市計画税について、令和2・3年度には被災住宅用地特例が適用されました。令和4年度には長野市独自の減免措置が講じられましたが、この減免措置も同年度限りの方針でした。

しかし災害復興、特に心の復興にはまだほど遠いことから、豊野地区住民自治協議会は昨年9月荻原長野市長と懇談し、固定資産税・都市計画税の減免措置継続を申し入れました。その結果、令和5年度から令和7年度まで減免が継続されることになりました。

その懇談の際、石村用水の取水口水門の自動化についても要望しました。3月市議会での答弁では、日影用水取水口水門の電動化工事が完了したので、令和5年度は電動化水門の効果を検証しつつ、事業化に向け関係機関と協議を進めていくとのことでした。



# 復興への歩み

## 台風19号災害復旧復興事業進捗状況説明会開催

豊野地区では台風19号災害以降、復旧復興事業が進みつつありますが、地区全体に以前のような賑わいが戻ったといえる状況ではありません。

このような中で豊野地区住民自治協議会が2月17日(金)、台風19号災害に関する長野市の各種復旧復興関連事業進捗状況説明会を開催しました。当日は、豊野地区住民自治協議会と災害復興対策委員会の役員が、豊野地区から出されていた復旧復興関連要望事項の進捗状況と今後の対応について市担当室、課からそれぞれ説明を受けました。以下、その内容の一部です。

被災住宅用地の固定資産税・都市計画税減免については、「向こう3年間の減免措置はありがたいが、被災状況なり進捗状況を考慮して対応してほしい」と要望しました。

浅川内水対策は、①左右両岸同じ高さの堤防に改修すること、②関係区の意向を踏まえ長野市が県と交渉すること、また都市計画区域内の住宅地域、工業地域が浸水被害により空き地が目立っているため、都市計画区域の防災力を高める対策を取るべきと要望しました。

(仮称)豊野防災交流センター関係では、豊野まちづくり委員会から提案された土日、祝日開館の要望について、市は前向きに検討しているとの回答でした。

防災交流センターの本体・外構工事を令和6年5月末に終え、供用開始は8月の予定と説明がありました。



令和4年度

# 豊野地区福祉健康大会

令和5年2月18日  
(土)かがやきひろば豊野にて豊野地区福祉健康大会を開催しました。昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となりましたが、今年度は約60名の参加で行われました。

今年度は、社会福祉功労者への表彰、そして「持続可能な共に生きる“福祉社会”をめざすシンポジウム」と題して、3名の女性シンポジストをお迎えし貴重なお話を聞きしました。

福祉健康大会の内容をご紹介しますと思います。

令和4年度  
社会福祉功労者(順不同)  
被表彰者一覧 敬称略

- 柄澤 公
- 霜村 巖
- 橋詰 政夫
- 高津 鈴子
- 宮崎 孝子
- 小島 貞子

## 表彰者代表おめでとう

**霜村 巖 (イケダバンド)**  
私たちがイケダバンドのメンバーは現在7名で須坂警察署、老人ホーム、文化祭、区民祭等幅広く活動しています。

私は25歳の時から入会し、すでに44年経過しました。音楽好き仲間にもめぐり会えてここまで続けてくることができました。また訪問先でも「また来てくださいね、ありがとう。」の言葉がとても大きな励みとなっています。

コロナウイルスまん延で練習もままならぬ昨今ですが、早く終息することを期待し、これからも練習を積み重ね体力が続く限り活動を続け、今後も社会福祉活動を活性化し、地域福祉の推進に寄与していきたいと思っています。



今年度はがやきひろば豊野で実施しました



長野市社協海沼事務局次長より表彰状贈呈

## シンポジウム

3名の発表内容を掲載  
(一部意訳)

災害被災者

令和3年度豊野地区住民自治協議会  
女性部会長

### 宮崎 淑子



今でも雨が何日も降ると心の中で早く止んでほしい、このまま通り過ぎて欲しいという思いでいっぱいです。

あの時、佐久から越水が始まり、そのうち長野地区の方も始まったと聞きました。

主人の弟が沖団地におり、1年前から心の病があり「一晩はここで寝ていてね」と2階へ移動させ、そこから家に戻り、西小へ避難しました。

「早く雨が上がってくれないか」という気持ちがいっぱいで、なかなか寝れませんでした。13日になり、外をみると天気がよくなっていたので、浅川を見に戻りました。「まだ大丈夫だな」と思ったのもつかの間、穂保で決壊したという情報を聞き慌てて避難しました。

そこへ市議会議員の佐藤さんが「弟さん連れてきたよ」と言われて「はっ」としました。弟のことを忘れる位動揺していました。

弟と二晩ほど西小にいましたが、落ち着かない状態だったので、シヨートステイの場所をすぐに探してもらい、15日の夕方に柳原の施設へ入所しました。その時、丁寧な説明があったのでしようが放心状態だったのだというが放心状態がただただ「お願いします」と伝えて戻って来ました。

今度は自分の家を片付けなさいといけないと家の中をほんのわずか歩いた場所でも床が抜け足を踏み外し、ささえた腕を骨折してしまいました。2週間の入院だったので泥だらけの畳など見ることもなく、片付けも一切できず、娘には「いなかっただから、なんでも片づけられてよかった。」と言われました。本当に1階には何も残っていませんでした。

入院中に避難所の閉鎖を聞いていたので住宅を探し、退院してから手続きを取りやつと落ち着いたのが11月終わりでした。

何も無い状態だったのでお店やりんこの湯でやっていた物

資提供で鍋など頂きなんとか生活を始めることができました。

1月に入り、友人の木工さんに早く早くとお願いして令和2年7月に自宅も出来上がり、そこでの生活も安定しました。

1月の終わりからぬくぬく亭の当番も始まり、南堀から通いました。南堀では周りは誰も知らない人なので、ぬくぬく亭に行けば誰かがいる、そして皆さんにお会いできる、それが私の心の拠り所でした。

他にも女性部会や色々なボランティアにも参加し、花の世話や野菜の種まきから収穫、大勢の中、大空の下での作業は話も弾み楽しかったです。なかなか思うようにいかないことが沢山ありましたが、色々動いていたおかげで落ち込まず、前に進んでくれた気がします。でなければ家で病気になっていたんじゃないかと思っています。

社会福祉法人 長野県社会福祉事業団  
小春日和所長

## 仲田 瞳



小春日和は平成24年に開設し、障害を持った方々の働きたいという気持ちを応援する支援する施設です。  
7年目の10月、台風19号で2階の

30cmまで水に浸かり甚大な被害に遭いました。

この頃は毎日が必死で、何からやっていいのか全くわからない状態でしたが利用者さんや保護者の皆さんから早く仕事をしたいといった励ましの声を聞き、前に進むことができました。

豊野駅の改札前で、朝会をして作業へ行ったり、水内荘の空き部屋やその後でできたプレハブを拠点に今までやってきた仕事や、新しい仕事を請け負い支援をしました。

7ヶ月後には改修工事が終わり、元の場所でも再開しました。日頃の「小春日和の作業は主に5つあります。①厨房作業では1日に70〜80個のお弁当を作り、仲間の施設や町内の高齢者宅に配達しています。②受託作業では、企業からの下請けで、部品の組み立てなどしています。③清掃作業では、2箇所の福祉施設を請け負っています。④えのき工場の仕事です。⑤畑の仕事です。草取りが主ですがその時の依頼に応じて利用者ができることを行っています。

これだけの作業量をキープするのは大変ですが、様々な作業を通じて色々な経験を積めることも小春日和の強みだと思っています。また一般企業就職を目指す利用

者さんにはビジネスマナーやコミュニケーションの取り方などの学習時間やハローワークに向いて就職活動なども行い、そして一般企業へ就職した方へは就職後3年間のフォローをする体制も整っています。

最後に、地域貢献や復興支援などやっていきたいが、自分たちだけでは難しいなと思うことも、あります。なにか一緒にできることがあれば声かけしていただき豊野町が元気になれるお手伝いができればと思います。これからも地域に密着した施設として障害ある人もない人も無理なく自分らしく生きていける暮らしやすい町を目指して、微力ではありますが私たちができることをしていきたいと思えます。

災害看護ボラ・清泉女学院大学看護学部  
講師〈博士〉

## 斎藤 正子



長野県の台風19号

の際、ボランティアをしていたのが、りんこの郷サテライトでの活動です。ボランティアの方の後方支援として入らせていただき、豊野西小学校やぬくぬく亭も看護協会として2回程入りました。

災害から3〜4年目とはどんな時期かと東日本大震災の当時訪問看護師の所長さんから話を聞いたところ、心がつかれている時期だと聞きました。建物が整っていても家族や仕事を無くし、住民の中には被災されていない方もいてその差なども抱え、アルコール依存症から孤独死などにつながることもあります。

そんな時どんなことがよかったですかというと気軽に話せる人、場所が大事だったそうです。専門家、ボランティアの方が入って心のケアがよかったです。

今一番大事なのが災害関連死の予防です。台風19号の災害関連死は121人、長野市は13人です。環境の変化やストレスなどで病気が悪化、動かないことで肺塞栓症(エコノミー症候群)により亡くなってしまう。そうなりやすい方は70歳以上で持病がある方が多いです。特に肺塞栓症は非常になりやすいんだと注意していただき、普段から手足を動かすようにして予防していただきたいです。

そして防災減災に向けた取り組みとして自助、共助、公助プラス互助と今言われています。まさにぬくぬく亭やボランティア活動だなどと思います。

阪神淡路大震災から今もお茶会がずっと続いている地区があります。多くの地区はNPOが手伝い、軌道にのって住民の方へ任せ、その後ほとんどがつぶれていく中、ここは外部の人が入ることで今も続いています。それが続くと継続的に実施していくことができず。ぬくぬく亭もこのようにならないういなどと思います。

最後に、今は自分たちの地域は自分たちで守る時代になったなと感じます。トルコ・シリアの地震、コロナの感染症、ウクライナへのロシア侵攻が続く中、先行きが不透明で将来の予測が困難な状態です。その中で豊野地区のように福祉に強い地域はとても素敵で、この大会も先進的な取り組みだと思えます。

困難があっても手を取り合って皆さんで乗り越えてきたところは他へ発信してほしいです。住みやすいまちづくりにつながっていくと自分たちが楽しい生活がおくれると思っています。

それと今核家族が多くなってきました。地域の皆様からのアドバイスは大切だと思います。この活動の子、孫へ伝承してほしいと思います。

## 自然災害伝承碑を設置



令和5年3月、令和元年東日本台風災害を記憶に留め後世に語り継いでもらう「自然災害伝承碑」を、豊野支所内のゆたかの公園に設置しました。この事業は、令和の満水碑設置検討委員会が進めてきたもので、長野市災害復興支援金を活用し、豊野石匠会の協力で完成したものです。

また、防災関連資料作成委員会が編集作業を行ってきた「豊野地区わが家の防災ガイドブック」更新版の編集作業がこのほど終了しました。

現在編集作業を進めている「豊野地区わが家の防災マップ」更新版とセットにして全戸配布する予定です。



## 今年も贈ります ゆたかちゃん子どもお守り

地域振興部会では毎年、豊野東西小学校へ入学する新一年生へゆたかちゃんのお守りが入ったお守りを配布しています。

豊野町蟹沢にある大乘院にて安全・健康を願い、魂入れをして頂き、子ども達へ贈られます。豊野地区外の小学校へ入学される新一年生でお守りをご希望の方は事務局までお越し下さい。

## 人権教育部会

## 視察研修会



人権教育部会では、年間事業計画の一環である人権教育部会役員等視察研修として、1月24日(火)須坂市にある長野刑務所へ施設参観を実施しました。

多少緊張の面持ちの中、施設の所長より「施設のあゆみ」「処遇指標」「入所から出所までの過程」「受刑者の一日」など説明を受けました。この施設は法務省の管轄であること、長野刑務所の受刑者763名のうち6割は初犯であること等お話を聞いた後、施設の中を案内していただきました。参観中すれ違う職員のみぎびした態度は、緊張感が伝わりました。

また、受刑者の将来に向けての就労支援として、ビル管理、介護福祉士、オペレーター等、資格取得などの指導もされていることもお聞きしました。

参観当日は極寒の大雪の日で、天候とともに身の引き締まる体験をしました。

## 各種活動紹介

### まちの縁側

ぬくぬく亭  
平日 午前10時～午後3時  
場所 豊野支所1階  
西側のお部屋

### おれん家カフェ

毎月第4木曜日  
次回：4月27日(木)  
午前10時～11時半  
場所 豊野公民館 講堂

### 子育てサロン

毎月第2・4火曜日  
午前10時～11時45分  
場所 かがやきひろば豊野



台風19号災害や新型コロナウイルスウィルス感染症の影響で3年に渡り評議員会を開催できず書面による議決に代えてきましたが、今年度は通常の評議員会を4月25日に開催する予定です。